東京片貝会報
発行所
東京片貝会
中央区日本橋江戸橋1〜9
化学工業技術同友会内
電話（271）1922

青葉そよぐ新会場
第十回懇親総会ひらく
太鼓音頭の盆踊りで幕

つゆ入りとはいい、初秋をおもわるさわやかな好天気である。第十回懇親総会は、昨年一昨年と開催した、おかち町の吉田デパートの都合により、本年は新宿区四谷の須賀神社会場を選び、正午より受付を開始した。ここは雑踏の下町とはかわり、緑陰をよく閑静な場所柄、場所不案内の人が多く出席率が感ぜられたが、間もなく旧なじみの顔がつぎつぎとあられ年一回のあいさつをかわす。なかには数十年ぶりという珍しい顔あわせもある。会場は盲腸癌の医の間付で舞台、楽屋のある大広間である。

郷里片貝からの米会客を主客に多列に（クラス会等数組）食卓並べて会員とりどりに座席を占める。やがて一時すぎ、安達市郎氏が司会役となり開幕する。

まず安達理事長の開会のあいさつがあり、総会議長に同氏を選出して議事にはいる。式次第により、小林幹事長が会計報告を行ない満場拍手でこれを承認、ついで事業報告の後、司会者より緊急動議の提出があり、かわって小林幹事長よりつぎの提案趣旨の説明が行なわれた。

「東京片貝は今回をもって創立第十回の懇親総会を迎えることになった。本会発展の陰には設立世話人の故松井助吉さんをたずね、また同氏の没後、会長役を引受けて尽力された安達会

三尺玉と秋の大祭

近来にないにぎわい

浅原神社の見聞記

明治二十四年の打揚げ以来、たいて一団の観衆がみとれているだけ、昔なつかしいサーカスのジンタの音もきかれず、なんとなく低調な祭り気分で一抹のわびしさを感じる。

それでも往年の主役ぞりの行事が復活して、各町内の若衆・小若たちがそれぞれの舞台をこし、威勢のよいシャギリ、車数の道行で伝統のお祭り気分をかきたてる。

例年のお祭りとほとんどが、前最も手伝ってが、今年はうちあげ花火の本数も多いという。

三尺玉のうちあげは十日夜の正九時、この日は朝からなぎしそうな怪しい空模様、どうしかもちこなえて、いよいよ決行の九時がせまる。提灯のあかりを背にけたたましい予告のサイレンが暗に鳴りわたる。そのあと緊張した空気をしずめるかのように静かの花火がパット夜に開く、間黒の空見あげる観衆、目、目、目、一斉にそれたこの瞬、みんなの視線がうちあげ場に注った西方、真無時の一点に集中する。この一瞬、巨岩がほえるようなうなり音をさくれつして、ビューン、ビューンとあがるかにみられた……三〇〇米一五〇〇米、七〇〇米、数秒のときがきされた息づまる瞬間である。百雷の一時に落下するかに似たこうぜんとしたひびきが天地をビリビリとゆるわして鼓膜をたたきつけた。

金、銀ちりばめた花の天がいが頭上をおって開花した。その直径は一キロにもわたるであろうか。一四寸金というが、まことにあるかにみられた……三〇〇米光の閃雲である。ようやくいうる光その花びらたちまち柳の糸条となり、その光影は地にとどくほどに低く落下して間にまわれていった。この直後、五色の光を放って祝福のスターマインが点火され、まださめやらぬ観衆のこうふんに美しい調べをそえていった。この行事も伝説終了すると気まくれの雨が夜空をついて降りしきった。

（A生）

写真上三尺玉打ちあげ、同下成人式を祝う青年たち（災の神）

眺った災の神

成人を祝う若者たち

昔からの農業に正月の行事……一月十五日夜の「災の神」の火祭りが最近の復古調ブームにあおられて華やかに催された。

場所は浅原神社境内、日暮れとともなく参道の両側には一貫ロウソクが二百数十本もアカアカと灯され、見物客二千数百人参加して賑った。

青竹をしんにわらでつくられた五米余の災神にはそれぞれ豊作初めの紙のぼりがさしこまれ、今年成人式を迎えたハッピ姿の男女が手に手にロウソクをかざして災神に火をうつし、成人の誓いを祝った。

したいものと、一念発起したのが製氣への執着です。うち覚えの防衛隊に志願、いろいろ工夫してみますが、要領がのみこめずなかなか巧くいかない。やっと外郭だけはかっこうはつけた。相間ごきになるとかげが未だしり、腐って異臭を放つ、凝り性なたちで、せっかく、本業の目ぞ儲けを会を忘れ、どんどん製作意欲につきこみました。このような調子で四～五年を経過しました。この店を開業したのは昭和四十一年ですが、かご町時代からいろいろと苦心しました。

あるときはポルマリン溶液中の色彩魚の変化を調査するために、三日も四日も水槽をじっとみつめて徹夜したことがあります。お蔭でいまは魚類の製作では日本でいまは指折の一人に数えられ、昨年はアメリカの博覧会に出品し好評を博しました。

製氣の工夫開発はますます防衛製品処理、皮ひき（内臓物をとり出す）形づくり（木枠をつくりつめものをする）（真空乾燥、電熱乾燥、自然乾燥）、殺菌、カビとめ管色、表面にプラスチックを吹きつけて仕上げをする。しかしこれは修業年月の長短いかんよりも天性の器用さ、創意工夫の試験、なんといっても熱心さが技術の向上となる。

常識家は博物館でそうである。それだけに技術の評価も高い。ガンブーム、釣ブームの昨今、自慢の製品はずば製氣というわけで、この方面の注文も殺到しており、二人の助手を増員してもっているがなかなか間きそうにないようである。

（安達生）

天性の器用さを活かす

趣味が実った剣製技術

吉原貞夫さんの至芸

趣味が本業を凌ぐ驚嘆のお話。業業をさりげない趣味でつぎのように語ってくれた。

昭和二十九年に片貝の中学を卒業すると直ぐして、駒込剣製の回郷である小野寺さん方に住みこんで剣製の修業をしました。昭和三十四年に独立して小石川かご町で剣製立をおりながら鍵金物店を開店しました。趣味のスポーツとして、海ではアクアラング（教師の免状保持）、山では拠銃に熱中しました。だんだん腕が上がると獲物も調ってくるようになってきます。これを自慢の客に保存しで剣製の工夫開発はますます防衛製品処理、皮ひき（内臓物をとり出す）形づくり（木枠をつくりつめものをする）（真空乾燥、電熱乾燥、自然乾燥）、殺菌、カビとめ管色、表面にプラスチックを吹きつけて仕上げをする。しかしこれは修業年月の長短いかんよりも天性の器用さ、創意工夫の試験、なんといっても熱心さが技術の向上となる。

常識家は博物館でそうである。それだけに技術の評価も高い。ガンブーム、釣ブームの昨今、自慢の製品はずば製氣というわけで、この方面の注文も殺到しており、二人の助手を増員してもっているがなかなか間きそうにないようである。

（安達生）

写真は吉原貞夫さんと自慢のはく製

昭和四十四年度収支決算報告

自昭和四十四年一月、至昭和四十四年十二月

収入の部

繰越金（前年度繰越金）	五〇、九九四円
一般会費（四十四年度）	二、二七五〃
寄付金（総会その他を除く）	九、〇〇〇〃
広告料（会報第七号分）	三、〇、八五〇〃
繰入金（第十回総会残金）	六、一、七〇〇〃
同（新年会会残金）	二四、八三〇〃
銀行預金利子	一、八二二〃
合計	二〇三、四七二円

支出の部

通信費（会報発送分）	七、三二〇円
同（総会その他一般）	一二、八一〇〃
印刷費（会報第七号分）	三三、八九〇〃
同（一般通信用）	六、六五〇〃
事業費（慶弔費、片貝花火大会寄付　その他）	四三、二〇五〃
同（総会余興費、片貝より招待者旅費その他）	一八、二六〇〃
事務費（事務所費、一般事務費、会合費、交通費、編集費、事務係手当、その他）	三八、五六五〃
合計	一六〇、七〇〇円
差引残高（次年度へ繰越）	四二、七七一円
外に別途積立金	五四、五〇〇円

右の通り収支決算報告致します

昭和四十五年一月

東京片貝会　会計委員

遠慮なく利用下さい

松風亭（憩の家）

同窓会、懇談集会など

さる四十三年十月六日（会報七号記載）東京片貝会発会になる仲使川（和歌山）「憩の家」の贈呈は、小生等出席らびに片貝村有力者参列の下に華々しく贈呈式をおこなったが、その後ボツボツと利用者はあるが、まだ一般に周知されぬためか、活用度ぶりが低い。そこで本会ではその使用規定のカンバンを招魂塔入口に掲げることにした。そしてこの憩の家を「松風亭」と名付け広く皆さんに利用公開することにした。

東京から帰省される方々、また在郷者に帰らずとなくても遠慮なく利用されんことをご話し申し上げます。この松風亭には水道設備、セリン、炊事道具、茶碗類がそなえてあり、晩春から初秋にかけて種々の行事に集会を催されることも一興があり、同窓会はじめ懇談会などを催事会前の寒会で十分から気がねいらずに開かれます。なお使用の際は近くの小林自治会に鍵を保管してありますから貴任使用者を記した上お帰えりに返却下さい。

石上直治さん

本会役員で戦前の片貝会会長、活躍された石上直治さんは、ながらく胃カイヨウを病み、入院術されたが、退院後、肺炎を発して昨四十四年四月二十八日死亡された。告別式は三十日午後一時から神田佐久間町三ノ三十の自宅で執行、本会から会長会長丸山副会長吉井秀七、安達ヒロさんが参席した。行年六十三才

本田竹次さん

昨秋有月、蝶夫婦別式

本会の副会長で有力賛助会員であった本田竹次さんは数年来糖尿病を患い療養につとめられていたが、昨四十四年九月四日、慈恵医大の貴重な分院で心臓ぜんそく発作のため死去された。行年五十八才、同夜自宅に通夜、翌五日に告別式が挙行された。故人の俗名は、各方面から八十名の多数にのぼった。

おくられた花輪は六十八名におよび本田さん生前の人がらを語るにふさわしい盛儀であった。本会からは遠会長、小林駒真、長谷川事務局長が参席した。

これで三十五日の法要が上野池の畑「東天紅」でおこなわれたが同氏の遺影を正面にかかげねんごろに語り合った。

日立電動工具ストール店
各種木工用電動具
鉄打銃ヒルテー
大工道具・建築金物
井ゲタヤ商店
小林敬司
東京都江東区北砂町4丁目40—9
電話東京（644）2562

自動車・電気機械
各種精密ねじ製作販売
株式会社 安達螺子製作所
代表取締役 安達宗吾
東京都港区三田1丁目九番13号
電話東京 451—1604

鮨種専門
株式会社 富春商店
売場 東京都中央卸売市場内(2023)
電話 直通(541)9138
福井カツ

三菱石油株式会社
大協石油株式会社 販売店
有限会社 藤塚商店
代表社員 藤塚栄三郎
住所 東京都墨田区太平4丁目17—2号
電話 東京(625)代表 2935—7
倉庫 東京都墨田区太平4丁目16—3号

東京片貝会報
発行所　東京片貝会
中央区日本橋江戸橋1～9
化学工業技術同友会内
電話（271）1922

秋風さわやかな十月
第十一回懇親総会開く
郷土青年たちの木やりで賑う

秋気冴ひ渡るさわやかな十月四日、昨年ひきつづき、東京の山の手、新宿住宅街の立のしげる閑静な「須賀神社」社務所で開かれた。

毎度のことから、三年ぶり、なかには五年に近い初参加のご対面もある。「やあやあ」「おうおう」おもわぬめぐりあいに懐しい言葉がとび出す。かつての旧なじみの顔におもいての印をさぐりあう。

一時ごろになると自然発生に広間に用意された百数十名の座席が満員のありさまで、三年ぶりの再会を喜ぶ人たちが、賑やかに談笑の輪をひろげている。

正面の床の間の来賓席には都里から招かれた方々が居並び、老年組も西装で顔をみせて、一年ぶりの会話に活潑の花さかす。

定刻一時をやや過ぎて、司会役の安達市郎さんの手で開会の幕がひらかれる。行きとどいた軽妙な司会進び で総会がスタートする。

まず安達龍作会長さんのあいさつで、当年八十二才としてなお第一に活躍する長老・芝桂七さんのさわやかな健康をたたえ、青年組たちの一団の賛辞をこめる。また青年組には本会各クラスの大集会として、クラス幹事と連絡を図るために努力することや総会開催日変更、また会員の所実のために会員名簿編集となるこなどの提案があり、安達会長から感謝状で一同乾杯と懇親会をひらく、会場は都里し懇親会をひらく、会場は都里し懇親会をひらく、会場は都里し

片貝文化の史跡……
遊山台墓碑銘にしのぶ

片貝は江戸時代（往園）のむかし、浅原郷と呼ばれ、鎮守の浅原神社の名は、これに由来するといわれる。くだって明治時代は近郷の農産物の集散地で、酒造業や菓子業などがおこり、また越後への宮である弥彦街道に位置する宿駅で、地方文化中心地でもあった。

片貝に学塾（朝陽館）ができたのは天明年間（朝陽館は多名な徳川家治時代、田沼家の執政）といわれる。昨秋、郷土史家の浅田芹之助氏によって「片貝の史跡」が編録され、新野桂一郎さん（新野製菓社長）が資任発行者となって二冊のパンフレットが出版された。

これは郷土の事跡を伝える貴重な資料であるので、ここに一部を採録してひろく識っていただくことにした。

戦前の小学校に在学した人たち国の法令に手習開始をしていたは、よく知っておられるとおもう。毎年盛夏の八月一日には、仲使山の招魂場で戦没者の慰霊祭典が行なわれた。この広場の下には約一五〇平方メートルばかりのきりもりがあった地がある。「遊山台」と呼ばれ、当時の寺小屋で教鞭をとった歴代の先生たちの墓碑がある。現存の老人たちも記憶のある人は杉丸山芸二郎先生くらいではなかろうか。

つぎに墓碑に略歴を記してみる。

「酒井先生」酒井石内先生、寛政二年五月十五日、高田の人、小女あり、加納の学者、南城はこを片貝の四人が入門と迎えてきた。時に石内は五十七才、天明三年（一七八三）石内を迎えるために「朝陽館」を寺町に建てた。四年後には片貝を去る、寛政二年（一七九〇）没、（朝陽館は空館）

「北溟先生墓」寛政九年没、（根北溟先生）次了、七月八日（根北溟先生）刈羽郡鯖石村加納の産、寺沢益城の門人、江戸に出た山兼山に学ぶ、父の病によって郷里に帰っていたのを迎えた。時期の医師でもあった。在館九年（寛政九・一七九七）没、行年四十二才、一男二女あり、加納の学者、南城はこの子（朝陽館は空館）

「葵園先生墓」（信川葵園先生）南浦原大面村、帯刀の産、片貝で北溟先生に学ぶ、二十四才で江戸に出て、後に浅草で塾を開いた。帯刀の滝沢景山のあっせんで、片貝の吉右衛門が出かけて妻子ともに迎えた。在館十年、文化十年（一八一三）六月二十九日没、行年四十一、寛政に没。墓の碑文は松下葵園（墓山）の作文で、葵園は江戸の豊後松下鳥右のおいである。

「東葉先生」（鶴田千鳥先生）下野石和の産、江戸に出て医術を学んだが儒学に転向し片山兼山に学び、幕府の学官となり、本邦三傑の一と称せられていた。文化十年（一八一三）六月、朝陽館の葵園先生が亡くなられたので、後任先生を招くため、仁右衛門、幸（一八五五）七月二十一日、行年四十七、二年後、安政四年、嘉右衛門が出版して翻訳の松下葵園（墓山）のあっせんで、東野先生（一八二八）八月六日、朝陽館で北溟先生に学ぶ、二十四才で江戸に出て、後に浅草で塾を開いた。在館十年、文化十一年没、行年六十七才。子孫は片貝にとどまった。

「豊山横井先生墓」（横井豊山先生）豊前の国、中津の産、大阪の人、横井豊山の父、明治十朗治二十年（一八八七）十二月十八日没、行年七十七才。子孫は片貝小学校を勤め、大正五年（一九一六）教員を退職、国文学を研究していた。昭和六年（一九三一）二月十二日没、行年七十八才、子孫は片貝にいない。

「森を弘之進墓」明治二十一年建元、大阪の人、横井豊山の父著、安政二年（一八五五）豊山の没後、一年目にして没、遊山台の碑文は豊山の作文である。この墓は三十三年後に建てられた。

「貝塚九山先生墓」（丸山陵先生）片貝の酒造家、能登屋、丸田千里、横井豊山に学んだが、鶴（一八三二）二月十二日没、行年七十八才、子孫は片貝にいない。

「貝村九山先生碑」（丸山恭二郎先生）貝陵先生の次男、父に学び、明治十朗治二十年（一八八七）十二年五ヵ月、明治二十一年明治二十八年（一八八七）十四ヵ年、山の去った後、門に出て高野陵に入った。弘化三年（一八四六）片貝に帰り、耕陵堂の塾主となった。

「貝村九山先生碑」（丸山恭二郎先生）貝陵先生の次男、父に学び、明治十朗治二十年（一八八七）十二年五ヵ月、明治二十一年明治二十八年（一八八七）十四ヵ年、片貝尋常小学校を勤め、大正五年（一九一六）教員を退職、国文学を研究していた。昭和六年（一九三一）二月十二日没、行年七十八才、子孫は片貝にいない。

昭和四十五年度収支決算報告

自昭和四十五年一月　至昭和四十五年十二月

収入の部

繰越金（前年度繰越金）	四二、七七一円
一般会費（昭和四十五年度分）	二四、四六〇〃
寄付金（総会その他を除く）	一〇、〇〇〇〃
広告料（会報第八号分）	二一、〇〇〇〃
繰入金（総会・新年宴会残金）	六〇、三五〇〃
銀行預金利子	一、六六〇〃
合計	一六〇、二四一円

支出の部

通信費（会報発送分）	九、九五五円
同　費（その他一般用）	九、二〇〇〃
印刷費（会報第八号分）	一九、七九〇〃
同　費（一般通信文用）	九、六五〇〃
事業費（慶弔費、片貝花火寄付、総会来賓旅費、その他）	二七、四七〇〃
事務費（事務所費、一般事務費、会合費、交通費、編集費、事務係手当、その他雑費）	三五、一二五〃
合計	一一、一九〇円
差引残高（次年度へ繰越）	四九、〇五一円
外に別途積立金	五四、五〇〇円

右の通り収支決算報告致します

昭和四十六年一月

東京片貝会　会計委員

鉄筋の三階に再建
中学の新校舎なる
一月下旬に落成式

新装なった新校舎外景

一昨年の五月、不審の火災で焼失した片貝中学校の校舎（西側）は、その後の小千谷市教育委員会が中心となり、県側当局の支援を受け、再建計画を進めていたが、昨年より工事に着手し柴田工業の手で鉄筋三階建の新校舎が完成した。

この落成式が同教育委員会主催のもとに去る二月二二日午前十時から同校講堂で教育関係者その他一般より約五百名、職員全校生徒が列席し挙行された。

小千谷市山本教育のあいさつで開会、君が代斉唱、佐藤市長の祝辞、教育委員会の広瀬議長（代理）辞、（谷田氏）から来賓祝の報告があり、工事、負担場主者の伊清工業はじめ黒崎工務所、大矢電気にそれぞれ感謝状を贈呈した。それより中越教育事長、市会議長、地元を代表して友田河三郎さんの祝辞がおこなわれたのち、在校生代表の謝辞関係者あり校歌を斉唱、市総務課長のあいさつで閉会した。

佐藤市長は四選へ
片貝は全候補当選す

今春四月下旬挙行された統一地方選挙では、現小千谷市長佐藤武氏と自民党公認の大塚謙二候補との間に激しい選挙戦が展開されたが、二十八日の開票の結果、八三票の差をひらき佐藤市長の四選が実現した。

つぎに同日投票の市議会議員選挙戦では片貝から候補した、つ

市長より業者への感謝状贈呈

関　広一氏（町浦）
安達重男氏（八島）
吉井忠民（一ノ丁）
本田善治氏（三ノ丁）

山砂利の採集
八米道路を建設

土建一事用の砂利採集は川法の強化から各地で問題をおこし、最近では砂利入と地出する個所が多くなった。新潟県下でも信濃川沿岸の川砂利もきびしい規制によって禁止となり、山砂利が物色されていたところ、こんど十三瀬（学校裏）の地下浅に豊富な砂利の堆積があることが判明し、この運搬用として鵜倉横橋から小林鮮店の傍へ抜け、さら小助さんの前をとおり、十三瀬に通する道路に八米の舗装道路が敷設されることに決まり、近く着工の予定である。

片貝越山会々長
丸山良平が就任

片貝越山会（田中角栄後援会）の会長はこのたび田善治さんにかわって丸山良平さんが就任した。またその組織を改編して機動性を発揮できる体制としたが今後の町勢の発展と活動ぶりが注目されている。

芝桂七さんに聴く
盆栽づくり放談

東京片貝会の長老、芝桂七さんの本領は自然のままの素木からは、ことし八十三才になる。昨夏長い月をかけて、愛情を注ぎ込む六月、戦後、太陽銀行から徴百生から逸に育てあげようとするの命へと動務された第一線の仕事を退職して、いまは江戸川べりの関宮で自適の生活をたのしまれている。

粒揃いとは申し難いが千変万化があって面白い。

自宅のほかに江戸川をのぼって三十坪ばかりの前庭には、ぎっしりと植木鉢が並べてある、一見して盆栽園の観をおもわせる。

いまは故人となった浅田田吉さんはいろんな商売をへん歴した末、交入の盆栽園主になったし、山口屋吉さんは後年は気のひるままに各盆栽ものを熱心にあつめられた。由来、明治生れの片貝人にはこうした風流趣味が案地となっているのではなかろうか。芝さんのかくれた趣味になるものといわれる。

迎い精神、がんけんなからだは、いろんな商売をへん歴した末、歩いてきた道、生のモットーである。一昨年の盆栽神社の神輿の寄付はいろんよく知るとこであるが、親鸞上人に深く帰依されて、茨城県鹿島田の西念寺の四百畳の大広間は、こうした風流趣味が案地となっているのではなかろうか。芝さんのかくれた趣味になるものといわれる。

現在、芝さんは、自然のままの素木から、ものを生かす別棟に倉庫をつくり、保管に家用いている。

ます理ようとも実行が芝さんの信条である。一昨年の盆栽神社の神輿の寄付は人のよく知るとこであるが、親鸞上人に深く帰依されて、茨城県鹿島田の西念寺の四百畳の大広間は、こうした風流趣味が案地となっているのではなかろうか。芝さんのかくれた趣味になるものといわれる。

現在、芝さんは、自然のままの素木から、ものを生かす別棟に倉庫をつくり、保管に家用いている。

遠慮なくご利用下さい
松風亭（憩の家）

同窓会、懇談集会など

さる四十三年十月六日（会報七号記載）東京片貝会有志寄付になる仲使山（招魂場）の「憩の家」の建屋は、小千谷市周辺らびに片貝有力者参加の下に盛大な贈呈式をおこなったが、その後ボツボツと利用者はあるが、まだ一般に周知されぬためか、活用度がいが低い。そこで本会ではその使用規定のカンバンを招魂場入口に掲げることにした。そしてこの憩の家を「松風亭」と名付け広く皆さんに利用公開することにした。

東京から帰省される方々、また在郷者に限らずたとえば遠慮なく利用されんことを心の紙七七お願いする。この松風亭には水道設備、セリン、炊事道具、茶器類がなえてあり、設備から初秋にかけて晴天のおりは野で集会を催されることも一興があり、同窓会はじめ懇談会など会費支出の案会ですから気がねいらずに開かれます。なお使用の際はぜひ小林鮮店に鍵を保管してありますから管理使用者を記した上お帰えりに返却下さい。

会員各位にお願い

最近、住所標示簡便による新町名地番地番地番がありませんため、配達上に際変えがあり困っております。変更のおりは必ずご通知願います。なお会費の二度分の納入のお方は、ご厄介でも同担当者用に利用のこと存じます。ご厄介でも同担当者用紙ご利用のこと存じます。ご通知願います。なお会費の二度分の納入のお方は、ご厄介でも同担当者用紙ご利用のこと存じます。なお第十二回総会の決議により年度会費を左の通り改正致しましたのご了承願います。

会費（一ヵ年分）金三百円也

係より

日立電動工具ストール店
各種木工用電動具
大工道具・建築金物
高級刃物・合鍵複製
井ゲタヤ商店
小林敬司
東京都江東区北砂町4丁目40—9
電話東京（644）2562

Tea Room
まるやま
東京都港区赤坂3—20—1
電話　東京（583）2303
地下鉄赤坂見付駅下車3分

鮨種専門
株式会社富春商店
売場　東京都中央卸売市場内(2023)
電話　直通（541）9138
福井カツ